

アシによる河川の浄化について

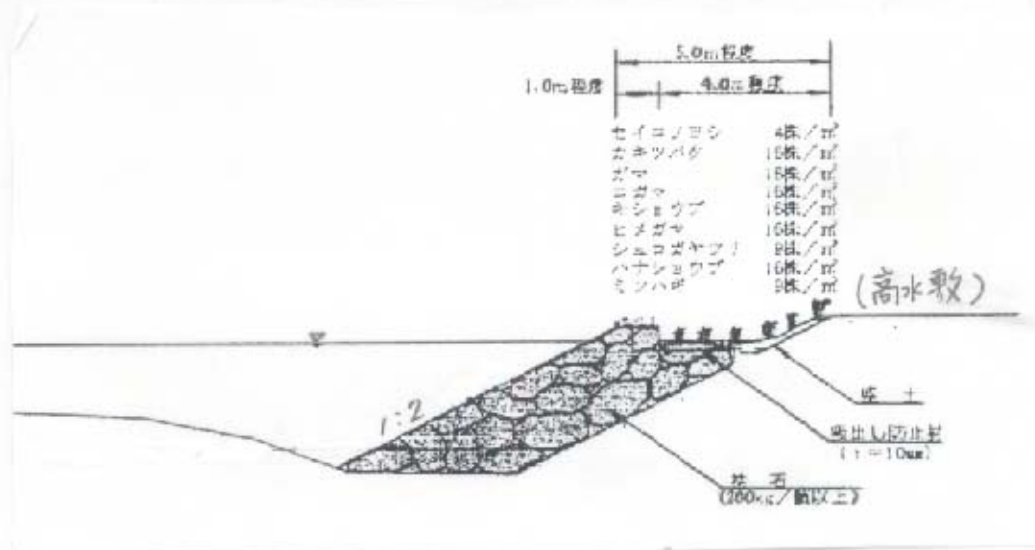
生活雑排水の中に含まれる窒素やリンは、植物プランクトンの栄養となります。

生活雑排水の流入が多い河川では、植物プランクトンが窒素やリンを吸収し、どんどんその数を増やし、アオコや赤潮の原因となります。

アシやヨシには窒素やリンを吸収する働きがあります。また、アシやヨシが生えることによりそこに繁殖するバクテリア、微生物や小動物が汚濁物質を分解し、水質を浄化する機能があるとされており、河川の水質浄化対策の一つとして、河岸へ植生したりしている事例もあります。

現在、百間川の水質浄化対策としては、旭川からの浄化用水（1t/s）の導入に加え、平成13年度から生活雑排水の流入対策として新たに水質浄化施設の整備を行うこととしています。

（芦田川河口堰での河岸植生の事例）



水辺の植物の役割

- ①魚やエビ、鳥、昆虫類などに餌や繁殖の場を提供する。
- ②浸食を防止する
- ③水をきれいにする
- ④人と自然との豊かなふれあい

水質の浄化

水質浄化には大きく分けて2つある。

- ・生活排水など有機性汚濁物質の分解促進
- ・リンや窒素を含む栄養塩類を吸収して水中から除去する

これらの浄化作用は植物それ自身だけでなく、植物体の表面に着いた藻類などの微生物群集によるところが大きい。

また、それらの微生物を餌としている巻き貝も水質浄化に貢献している。

